

3 聞き書き 1 : 北茨城市大津小学校避難者への支援について

[付：資料「大津小学校炊き出しの記録」、「大津小学校長報告“東日本大震災に伴う学校の役割”」]

収録日：2012年12月22日

場 所：北茨城市情報提供者宅

話し手A：女、北茨城市在住、元大津小学校教諭（2011年3月当時）

B：女、話し手Aのお嬢さん

聞き手C：調査員（杉本妙子）

（話中の登場人物D：、「大津小学校炊き出しの記録」作成者）

付録資料：資料1「大津小学校炊き出しの記録」（以下の聞き書き中では「炊き出し記録」）、
資料2「大津小学校長報告“東日本大震災に伴う学校の役割（抄）”」（以下の聞き書き中では「校長報告」）

○大津小学校での避難と支援について

- A みんなすごく不安になっちゃって、自分の記憶だけでいいのかなって思っていたんですけど。わたしも1年経つと、もう1年半ですか？だんだんこう忘れてきちゃいますよね。あの時はすごくよく覚えていたつもりなんですけど。何人くらいいたのかなって。
- C これ（「炊き出し記録」〔注1〕）はその時の資料か何かですか？
- A はい、あとでコピーしてきましょうか？
- C はいありがとうございます。
- A わたしもその時は、だーっと書いて。今日は何人、今日の昼は何食、夜は何食、って作って、献立は何と何と何、ってみんなで一緒に作って数を数えたりしていたんですけど、だんだんこう記憶が薄れてきちゃうんですね。あれ、最初いくつくらいだったかなって。だから、これみると、結構ね（よくわかる）。
- C お料理を作ったり、人数を数えて配ったりとか。
- A そうですね。それは私たち学校の先生方全部とボランティアのPTAの役員さんと、あと大津の地区のお母さんたち。主だったね。その人たちはものすごい、大量に食事を作ることに慣れてるんですね。
- C すごいですよね
- A はい。だって、300人400人分の食事を朝昼晩と毎日作るんですよ。
- C 30人でもできないのに。
- A そう。それも、器がない、何が無いなかで器どうしようって。じゃあラップを敷いてよそいましょう。水が無いからね
- C 阪神大震災の時の教訓ですよ。
- A そう。そういうのをありとあらゆる工夫をして。はい、これ、はい次これ、配り方はこうやって、はい第一陣はこれ持ってって、って。
- C そういうのを指示できる人がいたんですね。
- A そう。やっぱりそう長老の方がいて。
- C わりとご年配の方が。
- A わたしより上の方で、で、みんな元気なんです。そういう方たちがグループ作ってね。
- C それが大津のお母さん方なんですか？

- A そうです。病院のボランティアに行ったりね、あと、PTAの方でも役員の方が中心になって、手の空いてる方は今日ボランティアに来きましたーって言って。で、ちゃんと名前書いてもらって、今日はこういうふうのやります、ってお話して。みんな本当に一生懸命やってくれたんですね。あの力って、やっぱり町場の学校ではないあれですよ。大津の、やっぱり港というか、いつも浜で、
- C そうですね、何かあったらみんなこう協力し合って。
- A うん、集まって何かをするっていう、そういう姿勢が出来ているお母さんたちなんですよ。びっくりしました。
- だいたいそういうふうにやってくれた方は、何人かが中心になる人達ですしね。誰もがじゃないし、全員で来るってわけにもいかないし。あとPTAの方だって全部が来てくれるわけじゃないし、かえって全部いっぺんに来られちゃっても困っちゃいますけど。主だった方がだいたい学校に協力してくれるような役員さんとか何かやってた方が、やっぱり毎日詰めてくれて、わたしもときどきは休むからって行ってローテーション組んでくれて、そして、5人から10人くらいずつ、毎日こう出らせるようにしてもらったり。先生方は毎日詰めてましたけど。もちろん先生方は毎日。朝7時頃から夜の9時くらいまで、ご飯の炊き出し、おにぎり作り、それからおかず作り、ご飯、そう、食事ぜんぶ作って。
- だんだんね、支援物資が家庭科室に入りきらないほど、準備室に入りきらないほど集まるようになって、これだったら味噌汁作れるとか、これおかず作れるとかって、魚から野菜から肉からどンドン作ってくださって。
- C お米なんかも地元の方が持って来られたんですか？
- A そう、持って来てくれて。
- まずはね、あのあたり避難、地震の来た日は学校にお泊まりだったので、まず子供たちを父兄に帰して、そして、その中で、うちは水はない、電気はない、いつくるかわからない、また余震がくるって、学校から一旦帰った子どもたちも3~40人、親と一緒に来たんですね、学校に。1階の1階の5教室を全部あけて、体育館で使うジェットヒーターを、たまたまね。
- C あったんですね。
- A そう、たまたまね、発電機を持って来て、貸してくれた方がいたんですね。本屋さんかな、その大津の本屋さんが貸してくれて、ジェットヒーターを2台廊下に置いて、教室のほうに向けてダーっと焚いたんです。だから、結構ね避難者の方はあったかかったなーと思って。
- C そうですよ、寒かったですからね、とにかく。
- A 1階はね、うちの学校は下がコンクリートでその上にじゅうたんがひいてあるってそれだけなんです。昔は木で、あれだったんですが、今は経費削減で作ったばかり、作ったばかりっていつても20年ぐらい経つ学校なんですけど、だから冷たいんですよ。だから、下にね、下に段ボールが、たまたま捨てようと思って生活科室に置いてあった段ボールがあったんで、それをみんな床に敷いて。それがよかったですね。
- C そうですね。
- A あとは窓のカーテンと言うカーテンを、全部。
- C 毛布代わりですか？
- A そう。白いカーテンから暗幕用のカーテンから、全部、外して、くるまって。わたしら何にもなくて、このままこうやって寝て。ジャンパー着て机にこうやって座って(寝ました。)

○「炊き出し記録」を見ながら支援の様子について

- C 大津小学校はどのくらいの方が（避難したのですか）？
- A 最初は400人近くいましたね。
- C 3月11日が400人。
- A 12日、12日の朝、12日の段階で400人分作ったんです、ずっとその週は400人、13日も400（人）、14日も400（人）、15日も400（人）。400人分をだいたい作って。
- C これ（炊き出し記録）、きっと北茨城市でもまとめてらっしゃいますよね。
- A ううん、ないです。
- C ないんですか。
- A ないです。これはうちの学校だけの食事の。市からはおにぎり1個しか来なかった。1日におにぎり1個。
- C 一人当たり、1個という感じ。
- A そう。（市でも被災者が多くて）間に合わなかったんでしょうね。他にもみんないますでしょ。うちの学校はおにぎりは来ましたが、最初は市から来たんですが、3日目あたりからは自分のところで。わたしもうちから炊飯器を持ってきました。2升炊きの。
- C ガスですか？
- A そう。ガス炊飯器と、あとガスのプロパンが、（自宅の）この辺に転がってたんですよ、うちの。それをゴミ払って次の日、（自宅に）来てもうすぐ持ってって。
- C 問題なく使えたんですか？
- A はい。学校の家庭科室のガスってダメなんですよね。プロパンなんですけど電気が無いとスイッチが入らない。
- C 遠くからこう、持って来るから（使えないんですね）。
- A そうです。だから、直接、（プロパンを）ガス釜につないで。家庭科室にぼんぼんと置いて。こっちとこっちで二升炊きの釜をどんどん炊いて。洗わないで。米なんかも。水がまずなかったし。
- もう、あ、地震だって。大津の方たちはみんな、昼間まだ明るいうち、子供たちを帰してるうちに来て、「先生ロウソクいる？」って。「あるといいわね」って言って、うちにもあるけどそれじゃ足りないからって言って、みんなうちから結婚式のから細いのから太いのから、みんなロウソク持って来てくれて、それをまず職員室に集めて、学校の先生たちには家庭科室のボウルと言うボウル、バケツと言うバケツになんでもいいから全部に水を汲んできてちょうだいてって、わたし家庭科の担当だったから家庭科室のテーブルの上に全部水を汲んでもらって。それで煮炊きを、大事に使って。
- C 直後には水が出たのですね
- A そうなんですよ。だからまず水汲んで、明かりと、あとは毛布をいっぱい集めてもらって。
- C でも、よく直後に水をとって気がつかれましたよね
- A だって、（学校のような）ああいうところは、上にタンクに乗せてある分しかないですもんね。
- C あ、でもそれがあるからとりあえずその分は。
- A だからまずそれは食べる分に使わなくちゃね。だってトイレとかに使われちゃったらね。いずれにしてもトイレは使えなくなっちゃいましたけどね。それから、プールに、水をこういう、バンリョー〔注2〕っていう魚を入れる桶を、それをプールの脇にだーっと持ってきてもらって、それを置いて、そこへプールから水汲んで、それで今度、トイレの1階の脇に置いて、紙は流さないでくださいって書いて、それで始まったの。

水はホント良かったわよ。

C 対応がとても素早くって。すごいですね。

A 女の校長先生だったんですけど、もう、はい、これやって、あれやって、何かあった時には書いて渡してください、忘れちゃうから、って。そして、黒板に大きな紙を張って、何月何日避難して、今日の献立は何、誰が来た（と書いていった。）（それを）まとめてくれたんです。保護者の方が。

C 保護者の方が。

A ええ、炊き出しの中心になった方が最後まで。学校だけじゃなくて、学校が終わってから、そのあと大津の港のほうに行ったあとも、

C よくメモ取っておきましたよね。

A そう、誰が来たっていうのまで、全部その原本のノートに書いてあって。今日は誰が炊き出ししてくれたとかって。だから、すごかったんですよ。あと、いろんなタレントの方も来てくれて。何だっけ、LAくん〔注 3〕。来たんです。それでね、わたしなんか、ぜひ校長先生に会ってくださいって、こっちに避難者の方もいますから応援してくださいって。

C 案内されたわけですね。

A 家庭科室におばちゃんたちがいっぱい、パワーのあるおばちゃんたちが毎日ボランティアに来てくれて、一生懸命この人達の食事作ってくれてるから、声掛けてあげてくださいって。で、みんな喜んじゃって、やっぴーなんて言って喜んでるところを、（タレントの）ブログに書かれて。でも、みんな朝から晩までこれ（支援）にかかりつきりだったので、すごく元気づけられたんですよ。

（中略）

A でも、まあ命があっただけで。そして、自分のことはさておいてもお手伝いができるっていうのはね。どうしようって思って、うちに帰ってきたら、うちの中のことだけだったらホントにがっかりしちゃって、何にもできないし、気持ちが減入るだけですよ。でも、あの時はホントに何でこんなことしてるんだろうって思いましたよね。

（改めて炊き出し記録を見ながら）こんなふうになってたんですね。夢中になってやっていると（わからなくなる）。途中からはやっぱり2升の釜じゃとてもとても足りないっていうので、4升炊きのお釜を業者の方が貸してくれて、それを2つ玄関先に備え付けて、朝昼晩て、それで炊いた。

C すごいですね。

A ええ。こんなおっきなお釜で。そして、みんなおにぎりづくりが上手になりました。茶碗にぱっと入れる人、まな板の上にだーっと並べていく人、その上に塩を振る人。

C 塩振って。

A ええ。そして、ラップを切る人。ラップを握る人。握る係。そして、こっちに発泡スチロールの箱を置いといて、そこに入れて数を数える人。はい、一列20個ずつね、とか言ってね。

うん。でも大津はよかった。食べ物はね、結構集まってきたほうです。次の日からボランティアのDさんを中心にして仲間の方たちが味噌汁ぐらい作ってあげないとかわいそうだよって言って、自分の家にあるネギを持ってきてくれて、味噌を持ってきてくれて。わたしも、いつも購入してる卸屋さんがあるんですけど、そこ行って、砂糖一箱、それ1キログが20個入った砂糖とか、味噌も一箱、本だしも一箱、業者に卸すところなんですけど、もう、全部砂糖味噌醤油全部、味付けに使うごまとか、トイレトペーパーから子供のおむつから、ぬれティッシュから、全部そこから買ってって。最後にわたしが支払いですよ。〔笑〕

- C それはそれでまた大変ですよ。{笑}
- A でも、その時は。急場しのげればね、また別の形で返ってくるし。
- C みなさんが元気になるのが何よりですよ。
- A 初めはほんとにどうなるのかと思いつつね。始まったらやっぱり、あれしてこれして何したらいいのって、(みんなが)手を貸してくれて。先生方も家にいたお子さんたち、娘さんとか息子さんとかも手伝いますから、って言って、朝、土曜とか日曜とかね。あと、春休みに入るんですよ。春休みに入ったからって、就職決まって今やることないからって、手伝いに来てくれたりね。そういう方が何人もいました。
- C 嬉しいですよ。若い子が。
- A そう。別の方が外から入ってきてくれるとみんな張り切りますよね。
- C でもホントに大学生ぐらいとか、高校終わってとかって若い子が来ると、場の空気が変わりますよね。
- A そうですね。話はずむし。
- (中略)
- C (Aさんは)地元で支援をされたってことになりますので、たぶんことばの面でご苦労なさったことはほとんどないんじゃないかと思うんですけど。
- A そうですね。いつも使ってることばですから。
- B おじいちゃんおばあちゃんてわかんない人とかいる？
- A いないね。だいたいわかるね。
- 避難場所にはあんまりわたしは直接行かないけど。あとは、市から対応してくれる方が来てくださって、毎日、朝、一日中、夜も昼も寝泊まりしてくれて交替で。その方が中心になって連絡とかしてくれるのですが、そういう場所を作っておいて、ここの部屋は市の方のいる部屋で、案内所ですよ。結構外から、この人いますか、あの人がいますかって訪ねてくる方もいるんですよ。
- C そうですよ。そういうところはきっといるだろうと思いますし、情報も集まってくるだろうと思いますし
- A 電話も特別にそれ専用のつけてもらったり
最初玄関前につけたんです。そしたら玄関まで避難場所から来るのが、夜、おんなじ一階でもね(暗くて遠くて大変だった)。だからって言ってそっちの部屋につけてもらって。いろいろ試行錯誤しながら。あとは、わたしが持っていた小さいラジオなんです。電池式の単一を6個入れた、あれが情報を得るのものすごく(役立って)、ずっとつけっぱなしにして、一週間くらいずっと。みんな学校の先生も、いつの間にか持ってって聞いてんだ。すごく便利でした、情報を得るのに。地震のときから。やっぱり電池で使えるものっていいですよ。でもやっぱり学校は早めに電気をつけてくれて、電気も戻ったし、いろいろ使えるようになったので、そのうち掃除機やなんかで廊下なんかもお掃除したりして。
- (中略)
- C 避難されてた方はだいたい年齢層で言うとお年を召した方が多かったんですか。
- A そうですね。ここは結局若い人たちは仕事に行っただけです。
- あとは、子供たちも結構きてましたよ。家族連れで。自分たちの学校だっていう安心感もあったんでしょうけど。ここ(Aさんの自宅の辺り)は特別、電気水が遅かったんです、どういうわけか。
- C でもここはだいぶ被害が大きかったですから。
- B でもまだここはちょっと早かった。
- A うん。ちょっと早かった。でももっと早いのは道路の向こう側。道路より、わたしな

んかまだうちがまだ電気ついてないころに買い物に出かけたら向こう側電気ついてて、ああいいなあと思った覚えが、そこから1日2日でうちのほうはついて、そしてその川の向こうはずーとつかなかった。

- C でも、川の向こうはだいぶ津波で被害が大きかったところじゃないですか。
- A ありました、そうです。浜通りから南側はね。
- C いろいろな点検も必要でしょうし。
- A はい。あとは津波で電柱が倒れちゃったり水道管も中が壊れちゃったりだから、やっぱり補修するのも大変だったんでしょうね。

○「炊き出し記録」と「校長報告」について

- C こういうのも、PTAの役員さんが絵をちりばめて、その時のことをきれいにまとめてくださったんですね。
- A そうですね、電気が復旧しましたとか。こんなの忘れちゃいますよね、1週間2週間くらいして電気が来たのだったかなーとか。
(記録について) 家庭科室にノートがあって、黒板にだーと書いておいてね、誰が見てもわかるように書いておいてねって、みんな書くようになったんです。それをノートにどんどん記録していったんです。
- C その連携が。書き出すだけだと書き出してまた消したらそれっきりになっちゃいますもんね。それを記録にとどめておいてくださったっていうのが。
- A ええ、あとで確認しようねって。
- C これはやっぱり大津の方たちの連携っていう。
- A ええ、みなさんが動いてくださったんですね。
- C せっかくのものなので、私どもで報告書に載せさせていただくだけでなく、いろんなところで発信していくことがより大切だと思います。それに、方言に興味がある人が見ても、あ、こんな記録があったのかっていうことも報告書の一部としてあっていいだろうと思います。

○伝統文化の相馬の馬追を復活させた新聞記事について

- C こういった文化財だとか方言を、震災で被害があった地域で残そうというのについて、どう思いますか。
- A これはあの、相馬の馬追いを復活させた時の、実際には相馬に帰れてる人がどれくらいいるんだろうかとは思いますが。それは大事だと思います。なかなかやる方は大変だと思いますが、被災地にそうしていただけるのはありがたいです。ただ、何が最初かと順番付けるのは難しいですが、どっちのほうが大事かという生活すること、食べるのが大事になりますよね。
(食べることも文化財の保存も) どちらも大事だから、少し心に余裕があれば残して。ホントは一緒に継続してして両方並行線でやった方が。これが20年後30年後に、こういうときはこうすればよっていう目印になりますよね。やっぱり大事なことだと思うんですね。
支援していて、ただ食えること飲むこと、生活することの方しか頭になかったけど。
- C でもその時にはまずは当然ですよ。
- A 違った立場でものを見るのは大切ですよ。こういうこともやっといたほうがいいってアドバイスがあればよかったのかなあ。自分のことを振り返ると、学校の支援することばかりでこういうことに目を向けられなくて、1年以上経ってハタと自分のこと、納屋を見てがっかりしたのを覚えているのですが。

(納屋に置いておいたアルバムなどの入っている箱を) 今年の夏ぐらい? やっと出して、4月で退職したからちょっと片付けをしようかということになって出して。それまで荷物はあっち積みこっち積みでそんな余裕はなかったから。これももっと早く退職していたら、もしかしたら早いうちに出せたかも。本当にぐちゃぐちゃになった写真を見た時には自分でもあらーって思ったし、ああ、ここまで砂が入ったんだな、って。

○その他(支援と方言、方言パンフレット、方言スローガン等についてのご意見)

- ・《北茨城の方言について》お年寄りと話しててもことば自体はわかる。
- ・《支援者のための気仙沼方言のパンフレットを見ながら》お年寄りのことばを聞いて方言だと気づくことはあったが、生活の支援には必要なかった。それは東北とは違うことだと思う。
- ・《方言スローガンについて》みんな一生懸命やってるんだなあという気持ちにはなる。知り合いにも、車に貼っている人は多い。(共通語のスローガンの)「がんばろう茨城」はあんまり見ない。やっぱり「がんばっぺ」の方が力になる。
「ちばりよー」は沖縄の方言だとわかれば伝わるけど、そうでなければピンとこない。わからない方言より、標準語のほうが励まされる。

〔注〕

- [1] 「炊き出し記録」(後掲)については、大津小学校で行われた記録として、より詳細なものが『震災・避難所生活と地域防災力 北茨城市大津町の記録』(松村直道編著、東信堂、2012)に掲載されている。本聞き書きの付録資料としての記録はそれに比べると記録者の声が少ない。しかし、以下に示すように、松村(2012)には取り上げられていない大津漁協での支援についても記録されていることから、この「炊き出し記録」を使わせていただくことにした。
- [2] バンリョー 捕れた魚を入れるための丸い桶。大きさは、直径80cmくらいで深さも80cmくらい。もっと大きいものもある。上部の両側に、持ち運び用にヒモが2カ所ついている。プラスチック製。
『方言事典一大津あたりの言葉と民俗一』(山形巍著、北茨城民俗学会、2002)には「ばんりょ」の見出しで、「竹製の魚をいれる大きな籠。(「樊籠(はんろう)＝中国で鶏籠」の訛ともいう)」「はんりょかご」とも)戦後、浜がイワシの豊漁で賑わっていた頃は、これが港のあちこちにうず高く積み上げられていた。」とある。
- [2] 大津小学校に来たタレントは、日帰りで行けるとして北茨城市に支援活動で訪れ、副市長が多くの避難者がいるところとして大津小学校にタレントを連れて来たということである。その様子は、インターネットで生中継された。大津の後で、北茨城市平潟にも行ったとのこと。

付録資料1「大津小学校炊き出しの記録」

平成23年3月11日 午後2時46分東日本大震災
避難所 (大津小学校)炊き出しの記録

3月11日(金) 1日目

夜 缶に入ったソフトパン(2個入りの1個)
水(紙コップが無いので缶を使用)
地元スーパーさんからの差し入れのパン、お弁当など

◎停電、断水、余震のため、ロウソクの明かりの下、不安な一夜を過ごしました。

3月12日(土) 2日目

朝 おにぎり1個(市から)
夜 おにぎり1個(市から) / 大根とネギの味噌汁(鍋や食材を集め、
やっと夕食に間に合いました) 400人分

3月13日(日) 3日目

朝 おにぎり1個・海鮮汁
昼 すいとん汁
夜 おにぎり・カレー・野菜サラダ 400人分

3月14日(月) 4日目

朝 雑炊・たまご焼き
夜 おにぎり・アンコウのどぶ汁 400人分

◎13日と14日は、地元の五浦観光ホテルさんが、炊き出しをしてくれました。

3月15日(火) 5日目

朝 おにぎり・味噌汁
昼 リンゴ・グレープフルーツ
夜 おにぎり・野菜たっぷりの餃子スープ 400人分

◎地元を中心に支援物資が届き始めました。

◎また、食事の配布時間も決まってきました。

朝 10:00配布 昼 12:00配布 夜 17:00配布

3月16日(水) 6日目

朝 おにぎり・サンマの佃煮と漬け物
昼 ピーナッツとお菓子のパック1個
豆乳(紙コップで配りました)
夜 シーチキンの炊き込みご飯
味噌汁(キャベツ、ネギ、ほうれん草、小松菜) 300人分

3月17日(木) 7日目

朝 おにぎり・イカと大根の煮物 150人分
昼 うまかつ餅・キャベツとイカの和え物 150人分
夜 おにぎり・野菜たっぷりの餃子スープ 150人分

◎この頃から、昼間は家にお掃除に帰る人が増えてきました。この日の夜に、電気が復旧しました。

3月18日(金)	8日目		
朝	おにぎり・味噌汁(ナス、サツマイモ、ネギ)		200人分
昼	パン・うまかっぺ餅・野菜ジュース		150人分
	おにぎり・餃子スープ	消防団	10人分
おやつ	まんじゅう・袋菓子		150人分
夜	ツナカレー・リンゴ・たくあん		120人分

3月19日(土)	9日目		
朝	おにぎり・大根とさつま揚げの煮物・魚の煮物とトマト		100人分
昼	菓子パン・野菜ジュース		80人分
夜	おにぎり・ミートボール入り野菜スープ キャベツとハムの和え物(サラダ風)		120人分

◎久しぶりのお肉が美味しかったです。

3月20日(日)	10日目		
朝	おにぎり・味噌汁(キャベツ、ネギ) キャベツとハムの和え物・トマト1/4		120人分
昼	パン(チーズパンかメロンパンどちらか1個)・リンゴ半分		80人分
夜	おにぎり・ほうれん草とシーチキンの和え物 スープ(キャベツの卵とじ)		100人分

3月21日(月)	11日目		
朝	おにぎり・キャベツの玉子煮・豚汁(市より)		90人分
昼	パン(リンゴデニッシュ)リンゴ1/4・いちご5個		70人分
夜	混ぜご飯のおにぎり・わかめの味噌汁 ほうれん草のおひたし(かつお節和え)		80人分

◎まだ余震が続いていますが、家に帰る人が増えてきました。

3月22日(火)	12日目		
朝	おにぎり・焼きそば(市より)・白菜のごまドレッシング和え サンマの佃煮		90人分
昼	ドーナツ・ゆで卵・バナナ・アイスコーヒー		80人分
夜	クリームシチュー(白菜、椎茸、シーチキン)・穴あきパン リンゴ1/4個		90人分

◎22日は、地元お菓子屋さんから おしるこの差し入れがあり、全生徒(214名)にふるまわれました。

3月23日(水)	13日目		
朝	おにぎり・サンマの佃煮・ネギとかまぼこのお吸い物・ゆで卵		90人分
昼	菓子パン(3ヶ入り)・バナナ・かぼちゃの煮物		60人分
	港の片付けをしている 漁業関係者の昼食として		
	おにぎり(120個)ゆで卵(60個)バナナ(60本)		60人分
夜	おにぎり・トマトとキャベツのコンソメスープ		

リンゴ1／4個

90人分

◎23日は、大変な中での卒業式でしたが、感動的な式だったそうです。下校する時は、私たちも一緒に見送る事が出来ました。

◎市からの炊き出しも、充実してきたので、避難所での炊き出しは23日で終了し、残った食材を大津町公民館に移動し、24日から、漁業関係者の支援をしました。

大津漁港の片付け支援の炊き出しの記録

3月24日(木)

おにぎり・味噌汁・バナナ・サンマの佃煮

100人分

◎水道が、復旧し始めました。

3月25日(金)

カレーライス・ピリ辛らっきょう・バナナ

100人分

3月26日(土)

おにぎり(おかか)・大根の煮物(イカ、揚げ物)

味噌汁(ほうれん草、豆腐、油揚げ)

120人分

3月27日(日)

おにぎり(梅干し)・豚汁(白菜、ネギ、ジャガイモ、人参、ゴボウ、豚肉)

バナナ

50人分

3月28日(月)

おにぎり(昆布)・クリームシチュー・リンゴ

100人分

3月29日(火)

おふかし(椎茸、切り昆布、ゴボウ、人参、鶏肉、油揚げ)

キャベツの卵とじスープ・おにぎり

120人分

3月30日(水)

おにぎり・大根と鶏肉の煮物・味噌汁(ワカメ、ネギ)

きゅうりとシーチキンの和え物・ポテトサラダ

120人分

3月31日(木)

カレー・ほうれん草のおひたし・ゆで卵・きゅうりの漬け物

レタスときゅうりのサラダ

120人分

24日からは、大津町漁業婦人部の人達が、手伝ってくれました。

3月11日から31日までの、ボランティア延べ人数は183人でした。

たくさんの支援物資や、あたたかい励ましの言葉をありがとうございました。

〔注記〕

- 1 以上の「炊き出し記録」には、下記の修正を加えた。
 - ・ 1行 40字、1ページ 36行の書式を、本報告書の書式の1行 40字、1ページ 45行にした。
 - ・ 字体・ポイントを一部変更、表題と記録の最後のコメントは 11ポイント、その他はすべて 10.5ポイントにした。
 - ・ 元の資料に挿入されていたイラストは省いた。
 - ・ その他、ポイントの変更やスペース等の省略に伴ってわかりにくくならないように、適宜記号（◎、***線）を加えた。
- 2 大津漁港での炊き出し支援は、昼食のみで。

付録資料 2 「大津小学校長報告 “東日本大震災に伴う学校の役割”」

平成24年11月20日 大津小学校長報告（於、赤十字研修会）

東日本大震災に伴う学校の役割（抄）

1 はじめに

みなさんこんにちは。ただいまご紹介いただきましたSと申します。しばらくぶりで先輩の皆様方にお会いして大変うれしく思います。その方々を目の前にしてお話しさせていただくのは大変恐縮で冷や汗ものです。日頃の青少年赤十字賛助奉仕団のご活動に敬意を表します。お疲れ様でございます。昨年に発生した東日本大震災による地震や津波被害、それに伴って起きた原発問題とかつて経験したことの無い事態に私たちは遭遇し、その対応に追われました。さて、本日は「…」というお題をいただきましたが、震災より1年半が過ぎ、記憶が少しずつ薄れつつありますが、思い出しながらお話しさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2 地震・津波時の児童の避難状況

平成23年3月11日金曜日、子どもたちの学校生活の1日がおわろうとしていました。1, 2年生はいつものように集団下校をするために昇降口前に三々五々集まってきました。3年生から6年生までは教室で6校時の授業をうけていました。午後2時46分地震発生。職員室の机や書棚は激しく揺れ、中身が飛散しました。緊張感が走る。避難を呼びかけようにも停電のため校内放送は使えず、職員が校内を駆け回って大声で避難の誘導をしました。子供たちは緊張した面持ちながらも整然と校庭に避難することができました。恐怖のあまり泣きじゃくる子もいました。全員無事に避難できましたが、通学路には大谷石が崩れ落ち、津波が押し寄せておりましたので、後から考えれば日頃の避難訓練が生かされたこと、下校前でよかったと胸をなでおろしました。

3 児童の保護者への引き渡し状況

保護者の方も心配して続々と学校にお見えになりましたので、担任、担外の先生が二人1組になって名前のチェックをしてお引き渡しをしました。全員を保護者のみなさまにお引き渡しできたのは午後10時を回っていました。大きな混乱もなく引き渡しは順調に進んでいきました。子供たちは迎えの家の方が見えると本当にうれしそうでした。迎えに時間がかかるお子さんもそばに先生方がいるからか不安な面持ちでしたが落ちついて待っていました。鬼ごっこを始める子もいました。30から40人は下校後、学校に避難してきた子もおりました。その時には自分の家の様子や町の様子も目にしてショックもあったと思いますが、友達や地域の方たちと一緒にということで笑顔も見られました。

4 地域の避難場所としての施設の開放状況

引き渡しの間にも学校には続々と避難してくる方々が校舎に詰め始めました。避難所の体育館が地震の影響で使えなくなり、校舎1階の教室すべてを避難所として職員室以外を開放しました。4,500人はいたと思います。避難所の運営は市の災害対策本部、当日は市教委の先生おひとりが対応してくださいました。避難所は体育館になっているのでそちらに移動するよという話もありました。それは無理ということで押し問答を非常用の電話でしたことを思い出しました。市教委の先生の助けもあって通常の教室でよいことになり、翌日検査にきて（体育館は）即刻使用不可のピンクの張り紙が貼られたのです。危険なところに移動していたただかなくて本当に良かったです。当日は、とても寒い日でしたが、学校にあった生活科で使うためにとっておいた段ボールは床に敷くのに使われました。気づくと、みなさんはカーテンを外して毛布代わりに使っていました。生きるために知恵を出し合っていたと思います。停電、断水、電話も不通な中でどう今晚を過ごしたらよいのか不安だらけでしたが、そんな中、町の本屋さんが発電機を提供してくれ、それを設置したおかげで廊下に2か所の照明と体育館用のジェットヒーター2台を運転することができたのです。津波で全身ずぶぬれになってしまった方もおられたので本当に助かりました。明かりはほっとさせてくれました。学校ではガスやストーブが電動式のため使用できませんでした。普段いかに電気に頼り、災害に対して無防備だったかを痛感しました。それでも室内のあかりとりやトイレまで廊下の照明は十分ではありませんでしたから、ろうそくを使いました。理科室に保管してある実験用のもの、近所の方が持ってきてくれたものをトイレなどに使いました。夜中に職員が何度か補充に歩き4日後に通電するまで、それでしのぎました。1番気を使ったトイレの水は、1日数回に及ぶバケツリレーでトイレにはこびいれました。バケツは校内にあるものを先生方が集めてきました。魚や氷をいれる大きな桶を船主さんからお借りしてそこに水をため、用を足した後に流してもらうのです。トイレトペーパーも流しませんでした。ゴミ袋を用意してそこへ入れてもらい、詰まりをふせぎました。トイレの使用についての協力依頼を書いて張り紙し、少しでも清潔に使えるように職員や保護者の方と知恵を絞りました。プールには十分な水があったので何とか衛生を保つことができました。

食事については、その日の夜に市から150缶の乾パンが届き300人余りで分け合って空腹をしのぎました。若いお母さんから赤ちゃんのミルクの要望があり命に係わる問題とすぐに市に連絡しました。生後間もない赤ん坊もおり、校長室を2家族に開放しました。午後8時ごろには大型スーパー店から弁当や総菜、菓子パンが届き午後9時ごろには市からおにぎりが届き、校庭に避難している車の中の方にもお配りしました。次の日にはご近所声掛け隊の方が温かいみそ汁を1パイでもとネギやみそを調達して持ってきてくれ、ガス台も借りられて紙コップ一杯ずつ温かいみそ汁を配ることができました。市から1日2回おにぎりの配給がありました。学校に届くころには固く冷たく、心身ともに冷え切った

体には正直何とかできないものかと思えました。市の方は朝早くから何千個というおにぎりを握っているということでした。お米さえいただければ学校でおにぎりを作りますよと市の方に言ってしまいました。野菜やコメなどの支援物が届くようになっていたので、学校の職員PTA役員地域のボランティアの方々に炊き出しをすることにしました。リーダーになる方が支援物資を組み合わせで献立を考えてくださり、当番が煮炊きするというサイクルができました。3月24日まで続けました。その間に家に戻る方も多く3月末には避難所にいる方は50人程度だったと思います。新年度の準備に専念するために、その後は、市からの炊き出しをお願いしました。ボランティアの方々はその後公民館で炊き出しを行っていました。

<感じたこと、反省したこと>

・奉仕される人奉仕する人に分かれてしまう もちろん心身ともに疲れ切っている方、うちの後片付けで避難所には3度の食事と寝るときだけの方もおられました。若くてげんきのある方や高学年の小学生、中学生に協力を呼びかけました。通電してからは校内放送でトイレの清掃や廊下の清掃などの協力を呼びかけました。

・チョコレート配布事件 一人一人にお配りした後ろから呼び止められ、どうして私たちを無視するのかと叱られました。(配布という)好意があだになりました。その後は、取りに来ていただくことにしました。

・取材をお願いされた時の配慮が必要だったこと 聞くほうはよいが話すほうは苦痛
二次被害 恐怖がよみがえる、といわれた時は自分の至らなさに大いに反省しました。

5 震災後の児童の生活の様子

避難所の運営のお手伝いをしながらも、本業は手を抜けませんから職員の打ち合わせや担任の先生には通信表指導要録等帳簿の処理に専念してもらいました。卒業式も日の前でした。次年度の構想も考えなければならぬ時で課題は山積みだったのです。震災当日が金曜日でした。土、日を挟んで14日(月)から18日(金)まで臨時休業日。その間に児童の安否確認をしてもらいました。2人一組自転車で家庭訪問。余震も頻繁にあり、訪問中に津波の被害にあわないとも限らないので余震があるたびに冷やっとなりました。結果は多くは自宅で片付けの手伝いなどをしているということでしたが市内や市外の親せき宅に身を寄せている子、遠くは福井県の親せき、教科書やカバンが流された子もおりました。喫緊の課題は、臨時休業後の1・2年生の教室をどこにするか、卒業式をどうするかでした。避難所には被害の大きかった家庭の子供たちもおりましたので、6年生は「卒業式はどこでやるの」ときかれました。体育館ではできませんでしたから「学校から卒業したい」の声。市の校長会が開かれ教育長さんから体育館の使えない小学校は近隣の中学校か校内の多目的教室など無理をしないように実施するようにとのお話がありました。常北中学校の校長先生からもうちの体育館でと優しい言葉かけをしていただき、気持ちが動きましたが、やはり自分の学校から旅立たせたいという思いが強く、教頭さんや教務さんと相談をし幸いオープンスペースでつながった3教室を活用して狭いながらも実施することができました。17日には引越しのために保護者に呼びかけ50人の方が集まってくださり、1、2年生の1階から2階への引越しをしたのです。さて、卒業式の内容は簡略にと思っていましたが、6年の担任から大丈夫です。呼びかけも卒業式のお歌も歌えます。と心強い答えが返ってきて、22日一日の練習のみで23日の卒業式をむかえたのでした。原発の問題も深刻になってきており、登下校は保護者の送迎で乗り切りました。これはPT

A役員さんからの申し出があり、学校としても承諾したものです。24日には修了式を迎えることができました。4月1日からは学校生活に専念することを市教委にもお願いし、運営はすべて市のほうでとりしきってくださいました。避難している方はおられたので4月11日まで1階は避難所として2階は教室としての共存をしたわけです。4月PTA総会后保護者の手をお借りして元の教室にまた引越しをしました。手際よく短時間で終了することができました。とにかく必死でした。転校した子が子供たちは6人けなげに生活しているように見えました。先生方の話を聞くと、「授業中余震があると、子供たちはみんな一斉に私の顔を見るんですよ」ということがあり、とても印象的でした。

(以下、「5 震災後の児童の生活の様子」の後半、「6 危機管理マニュアルの見直し」は省略)

7 地域と連携 ——発信基地としての学校——

大津小学校の例でいえば、PTA役員、ご近所声掛け隊のメンバー（見守り隊）。中学校には漁協の女性部のみなさんが炊き出しのボランティアをしてくださいました。日頃より地域の人と人とのつながりの強いという地域性もありましたが、協力や助け合いの大切さを改めて実感いたしました。こうしたことから、地域との連携の大切さを声を大にして申しあげたいと思います。

8 おわりに

以上、まとまりのないつたない話を聞いてくださって本当にありがとうございました。

[注記]

以上の「校長報告」原稿には、次の修正を加えた。

- ・冒頭に「平成24年11月20日 大津小学校長報告（於、赤十字研修会）」を加えた。
- ・報告原稿内に出てくる校長名をSとした。
- ・1行40字、1ページ36行の書式を、本報告書の書式の1行40字、1ページ45行にした。
- ・文体をデス・マス体で統一させた。
- ・その他、数か所の軽微な変更（ひらがなを漢字に、助詞・読点の挿入、等）をした。